第１２回漢方教室（鍼灸）

がんなどの難病を癒す－自然治癒力を最大限に引き出す－

「鍼灸でがんを治せるのか？」という質問をよく受けます。私は難しいのではないかと思います。

では私たちに何ができるのかをお話したいと思います。

1) ならないようにすることです。これは言い換えれば「養生」ということです。

2）抑止力になる。これは免疫力をアップすることです。

養生について

日本には養生のことを書いた大変によい書物があります。それは江戸時代に儒教学者である貝原益軒という方が書かれた『養生訓』です。この本ことについて少し紹介したいと思います。

その中でまず人生の楽しみには、

・道を行い、善を楽しむ

・病なくして快く楽しむ

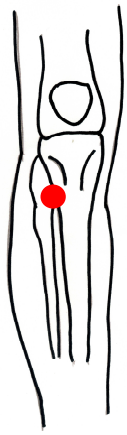
・長寿を楽しむ

という３つの楽しみがあり、「養生の道」とは「病にかからない時に慎むことである。病気になってから薬を使い、鍼や灸をもって病を攻めるのは養生の末である。」と書いてあります。その養生の根本とは、発病する前に予防すること、つまり今よく言われている予防医学のことです。これを漢方では「治未病」と言います。養生をしながら免疫力をアップさせることが理想なのです。

それでは、免疫力をアップさせる代表的なツボを紹介します。

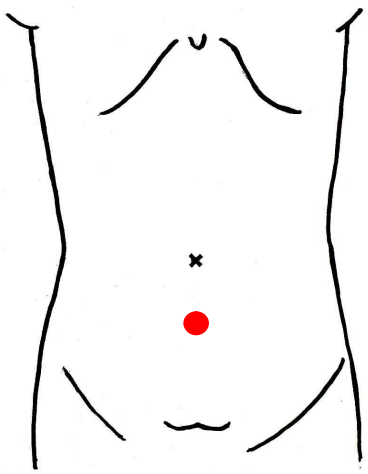
足三里（あしさんり）

膝下のすねの上にある突起した骨から外側に２本分のところ



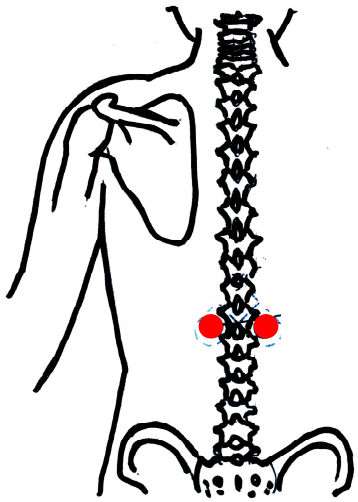
気海（きかい）

へそから真下に指３本分のところ



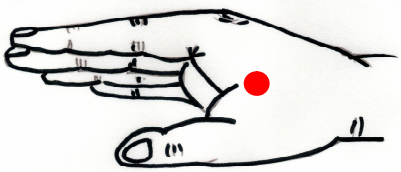
脾兪（ひゆ）

肩甲骨の下を結んだ線の背骨から４つ下の背骨とすぐ下の背骨の間から両側に指３本のところ



合谷（ごうこく）

手の甲側で、親指と人差し指を合わせてできたふくらみの中央



ホスピスでの東洋医学的な試みが少ないのが現状です。
まず目標は QOL (Quality of life) を維持のお手伝いです。
この QOL とは、人々の生活を物質的な面から量的にのみとらえるのではなく、精神的な豊かさや満足度も含めて、質的にとらえる考え方、生活の質、人生の質、生命の質のことをいいます。